

令和元年度 佐賀県立佐賀商業高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標 「夢実現、怒ろ佐商！」「新たな伝統を！」のスローガンのもと、商業人として必要な知識と技術を習得させ、基本的なマナーや社会的モラルを身に付けさせるとともに、何事も自ら考え、主体的に取り組む生徒を育成する。	2 本年度の重点目標 ①将来の生き方について志を持ち、その実現に向けて取り組む生徒の育成 ②商業人として、グローバル社会の課題や情報社会の高度化に対応できる人材の育成 ③社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育の充実 ④教職員の指導力の向上
--	---

達成度
A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

資料 2

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①将来の生き方について志を持ち、その実現に向けて取り組む生徒の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
活動 教育	●学力の向上	・漢字テストや英語単語テストに向けた学習の取組 ・学習の基礎診断テストの活用 ・家庭学習時間の確保	・漢字テスト・英語単語テストの欠点数0名(ゼロ)を目指す。 ・1時間以上の自宅学習が、60%以上を目指す。	・積極的に漢字テストや英語単語テストなどを実施する。 ・基礎診断の結果を受け、授業方法を見直す。 ・各教科ごとに計画的に継続可能な課題を提供する。	B	・小テストや課題の取り組みは、良好であった。 ・定期考査の成績不振者が昨年より多くなっている。	・本年度3学期に、実力診断の結果を受けての講話を実施した。来年度も同様の取り組みをしていきたい。
活動 教育	●志を高める教育	・クラス目標・個人目標を設定し、目標の実現に向けて努力する教育活動の推進 ・キャリア教育の充実と進路実現に向けた支援 ・各活動の満足度の向上(目標達成)	・生徒の夢実現のため、進路内定率(就職・進学)100%達成を目指す。 ・学習活動や部活動、資格取得など、学校生活における個人目標の実現に向けて努力した生徒の割合を95%以上にする。 ・部活動での達成感を通して、自信と夢を自己肯定感を育み、将来への夢や希望を持たせる。	・各学年における進路啓発の取組を行い、系統的なキャリア教育を通して、自らの将来について考えさせる。 【1年】出席率99%を目指す。進路講演会を実施する。 【2年】「星プラン」の中でインターンシップや面接指導を実施する。 【3年】就職希望者には夏休みの学習会、進学希望者には朝補習や小論文指導を行う。	A	【1年】出席率99%を達成できた。1学期に2回の進路講演会を実施したことや早期の進路意識を高める取り組みはできたが、その後の深まりがなかった。 【2年】計画通り企業訪問・企業説明会・学校訪問などを行った。多くの生徒が就職・進学に対して意識が高くなった一方、進路希望未定の生徒が30名程度いる。 【3年】予定通り、希望者に対しての対応を実施した。ただし、担当者任せになりがちなところがあるので組織として行う必要がある。 【進路】各学年で取り組みはできていたが、3年生を重点的に指導していたので、今は1年生に対する進路指導を工夫して取り組むたい。	【1年】講演会以外の部分で、生徒自身に進路や職業について、調べ学習の時間などを設け、主体的に学ばせる機会を増やす。 【2年】担任・学年主任・進路担当者などで面談を行う。場合によっては進路検討会を行い、的確なアドバイスができるようにする。 【3年】進路や教科を中心として組織を編成してはどうか【進路指導】進路研究ノートに進路スケジュールページを加えて生徒自身が記入することにより、進路実現への取り組みを確認できるようにする。進路について3年生担任から1年生生徒へ話をする。

②商業人として、グローバル社会の課題や情報社会の高度化に対応できる人材の育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
運営 富校	○学科の特色ある取組推進と高度資格(検定)取得	・各学科、教科で掲げる各資格や検定の取得の100%合格 ・グローバルビジネス科の特色を打ち出し、実績づくりと長期計画の構築 ・情報処理科の長期的展望の構築	【商業科】 ・受験する検定の取得を前年度以上に上にする。 【グローバルビジネス科】 ・「会計」「情報」の知識と「英語」によるコミュニケーション能力を備え、グローバル社会で活躍できる生徒の育成を目指す。 ・受験する検定の取得を前年度以上に上にする。 【情報処理科】 ・受験する検定の取得を前年度以上に上にする。 ・各種コンテストへ入選を目指す。	・高度資格を取得させることで、進学に生かした指導体制を確立する。 ・外部より指導者を招聘し、より高度な資格取得の指導を行う。 ・検定前の補習を取り入れ指導を強化する。(部活動顧問との連携) ・授業で習得した知識や技能を検定取得にも活かすよう研究する。 ・ALTによる授業やイングリッシュキャンプ、海外研修へ積極的に参加をさせ、語学力・コミュニケーション能力を育成する。 ・商業に関する科目、英語に関する科目ではTT指導を行う。 ・義務教育からのプログラミング教育などを系統的に指導できるよう、課題研究などでの取り組みを構築していく。	A	【商業科】簿記検定試験合格率は例年通りであった。各種検定1級の課題に悪化がもたらしているため対策が必要である。 ・検定前に補習を行ったが部活動の活動時間が短くなる。 ・外より指導者をより高度資格取得対策を行った。 ・課題研究では「佐賀を誇りに思うフェスタ」(佐賀県甲子園)にチャレンジをした。プレゼンテーション能力を身につけさせる。 【情報処理科】 ・1月に行われた検定でのビジネス情報は増進、プログラミングは減少した。問題が高度になってきており対応が必要である。 ・4つのコンテストに応募し、2つの部門で入選を果たした。 【GB科】海外の生徒との交流や講演会にかかわった生徒たちに関しては語学に関する興味関心の向上につながった。 ・海外研修へは興味を持っていている生徒が多い、費用が多少かかっても参加希望している生徒はいるは多い。 ・大学教員の講話、留学生との交流を通して異文化理解が深まったが、予算都合上講師の毎年の確保が難しい。 ・国際課からの講師や日本文化を知るための講師を招き、生徒たちのグローバル社会に生きることの意味を考えさせる。 ・学校訪問(韓国・中国)や研修生(韓国)を受け入れ、コミュニケーション能力を身につけることができた。	【商業科】 ・検定対策補習等の時間確保。(部活動の理解) ・いろいろなコンテストへの募集にチャレンジさせ、より多くの生徒にプレゼンテーションの機会を設ける。 【情報処理科】 ・基本を教えた上、難易度の高い問題を多く解く時間を増やす。 ・更に多くのコンテストに応募する。2年生の段階で、illustratorの技術を習得する。 【GB科】 ・GB科以外の生徒が交流等に関わる時間もついでにいたい。 ・研修費用や部活動の関係で研修参加に応募できない生徒もいる。できるだけ生徒負担がからぬ方法や日程を調整する。 ・GB科以外の生徒も海外研修旅行にはどうか。
活動 教育	○グローバル人材の育成	・異文化交流などの体験活動 ・実践的コミュニケーションを重視した英語教育の充実	・ALTによる授業を通して、積極的に英語でのコミュニケーションをとる態度を育む。 ・講演会や国際交流などを通して、多様な文化・価値観の理解と共生力の育成を目指す。 ・各種海外研修プログラムや検定への積極的な参加を促す。	・外部講師による講演会を実施する。 ・海外からの学校訪問(韓国、オランダ、アメリカ)による異文化体験を通して、語学に関する興味関心の向上を図る。	A	・大学教員の講話、留学生との交流を通して異文化理解が深まったが、予算都合上講師の毎年の確保が難しい。 ・国際課からの講師や日本文化を知るための講師を招き、生徒たちのグローバル社会に生きることの意味を考えさせる。 ・学校訪問(韓国・中国)や研修生(韓国)を受け入れ、コミュニケーション能力を身につけることができた。	・生徒が大学に出向き、大学主催の異文化体験イベントに参加することでより交流の幅が広がること期待できる。 ・県の事業や機関の有効活用をしていく。

③社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
活動 教育	●心の教育	・感謝や思いやりの心の醸成 ・本の貸出冊数・利用者数、図書館来館者数の増加 ・マナー教育の充実	・人権・同和教育の推進を行う。人権尊重の精神を身につけるために、自己と他者を大切にすることを育む。また、多様性を認め合える人権尊重意識の涵養を目指す。 ・生徒指導部による再検査率を生徒数の10%以下にする。 ・本の貸し出し冊数を、1人年間10冊以上に上にする。 ・規範意識や自尊感情を高め、感謝の気持ちや思いやりの心を育てる。	・職員の人権教育に関する研修の充実を図るために、校内研修を学期に1回以上行う。また、校外における研修に職員の10%以上が参加する。 ・生徒の一人ひとりの人権感覚をばくむための取り組みをHRIにおいて全学年1回行う。 ・図書館だよりや読書週間などを通して、本への親しみを持たせる。 ・新刊や生徒からの要望がある本をできるだけ購入する。 ・身だしなみ指導前に、髪型などについて呼びかける。 ・各種講演会の計画・実施を行う。	B	・人権・同和教育研修会に積極的に参加し、職員の資質向上に努めることができた。学期に1回の職員研修を実施することができた。 ・年一回の人権学習のPRを実施することができた。 ・貸し出し数、閲覧者ともに減少の傾向にある。PRのみの問題だけでなく、根本的な見直しが必要と思われる。 ・普段に比べて長期休業明けは違反者が多かった。	・様々な人権課題に対応できる職員研修の充実および時間の確保する。 ・読書の記録、ディスプレイなどの見直し(現在進行中)、図書委員の活用等検討すべきところが多々ある。 ・生徒会風紀委員会から検査前に呼びかけを行う。
活動 教育	●いじめの問題への対応	佐賀商業高校いじめ防止基本方針に則った未然防止及び早期対応と再発防止	いじめと疑われる事案が発生(覚知)したら、3日以内に対応を開始する。 ・生徒会活動の中でいじめ撲滅運動など啓発活動を行う。 ・職員間で、いじめ問題に対する意識を高める。	・「佐賀商業高校いじめ防止基本方針」に沿って取り組みを行う。 ・いじめアンケートを学期に1度以上実施し、早期発見に努める。 ・QU検査を年1回実施する。 ・教育相談期間(4月・9月)や長期休業前後の個人面談を実施し、いじめや悩みなどの早期発見や早期対応に努める。 ・いじめ防止強化月間(5・12月)で啓発活動を行う。	A	いじめ事案の発生や兆候が判った時点で校内委員会を速やかに開催し、対応や生徒への指導について迅速に行うことができた。発生した事案はあったが、関係生徒を時間をかけて観察し、解消することができた。加害生徒への支援も粘り強く行えた。 5月に生徒アンケート、2回にいじめアンケート(6月、11月)担任による個人面談(4月、9月)、7月にQU検査を実施し、いじめの有無や生徒の悩みについて、早期発見、早期解決ができた。	・現行の体制を継続するが、未然防止の観点から生徒会活動を通したいじめや情報モラル教育の推進を進めたい。また、HR活動で担任とクラス生徒がふれあいや話し合いの機会をきめ細かくとすることで未然防止につながる取り組みを充実させたい。 ・今後教育相談(SO)の活用を呼び掛けることとし、「保健室だより」など保護者向けの広報を行う。SOの講話を次年度も実施する。関係分掌と定期的に情報交換を行う。

④教職員の指導力の向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
運営 富校	○教科の指導力向上	・授業研究の推進 ・ICT利活用の推進	・全職員が他の教師の授業を見学する機会を年に1回以上は持つ。 ・ICT機器を活用した授業の公開を、年に1回以上行う。	・他教科の研究授業にも参加し、優れた指導方法の共有を図る。 ・授業研究については、十分な経験がない職員についても積極的に参加できるよう校内体制を整える。 ・教育フェスタの授業公開に合わせ一般に授業を行い、本校職員も互いに参観し、授業の技術向上を図る	B	・公開授業を実施したが、教員相互間の授業研究の機会が少ないことができた。 ・ICT利活用の技術については、全員の先方が習得している。	・教員相互間の授業の見学日を設定し、その日に各教科代表の授業を実施する。 ・教科内での、ICT教材の共有化を図る。
運営 富校	○生徒理解に基づく指導力向上	・進路指導、生徒指導における研修会の実施 ・学年ごとに情報交換会の実施(学年会)	・進路及び生徒指導に係る専門機関の協力を得て、教職員の指導方法や情報を最新の状態にする。 ・気になる生徒や指導を要する生徒への早期対応を図る。	・各分野での講師を招聘した研修会を実施し、情報を最新の情報にする。 ・週に1度の主任連絡会で各学年主任への情報を共有し、学年毎で情報共有の場を設けるよう指導する。 ・その際、QU検査やいじめアンケートなど各アンケートなどの活用を行う。	B	・問題の早期発見に努めているが、本年度痛ましい事件が起こった。 ・学年集會の実施や見回りなどで注意喚起を行っていたが、問題行動が起こってしまった。	・学年主任、担任と定期的に情報共有を行う。 ・相互信頼の下で職員モチベーションを上げていく。
運営 富校	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・校務等の効率化の促進 ・教職員の意識改革	・前年踏襲の行事や校務の見直しを適宜行い、業務のスムーズ化を図る。 ・各種委員会の業務や役割を見直し、機動的な組織運営を図る。 ・部活動に関する学校基本方針に沿った活動を行う。 ・教職員の時間外勤務について前年比5%減を目指す。 ・有給休暇の積極的な取得を推進する。年に10日以上を目指す。	・教職員への連絡はSEI-NetやメールなどICT機器を積極的に使い、提出物や照会に関する負担の軽減を図る。 ・各教職員の勤務時間の把握を行い、業務の偏重がある教職員に対して、業務分散のマネジメントを行う。 ・各種委員会の統合などで削減を図り、教職員の負担を軽減する。 ・産業医による面接や指導を通じて教職員の意識改革を図る。	A	・各種委員会を効率的で実効性のある委員会に精選したことから各種委員会が機能した。 ・SEI-Netのメッセージ機能やメール配信を適宜活用して、連絡や提出物の集約を効果的に行うことができた。 ・振休や年休を積極的にし、心身の休息を確保する雰囲気が出てきた。	・設置が義務付けられた委員会以外の設置の際に、委員会の役割を整理統合して実効性のあるものとしたが、継続して会議の縮減と効率化を図る。 ・年度途中でSEI-Netが更新されたため、使い方に戸惑いがあるが、今後効率的に活用する必要がある。 ・定時退勤日や学校閉校日、部活動休業日を積極的にとるよう継続した推進を行う。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
運営 富校	○学校の活性化と情報発信	・自主的な行動と地域貢献 ・部活動や生徒の体験活動の広報(ホームページ含む)	・各種部活動で全国大会出場や研究大会の入賞、大会や競技会などで入賞を果たす。 ・ホームページやスクールニュースで地域、保護者へ学校の情報を提供する。 ・生徒会活動の充実を図る。	・部活動での取組を校外外に披露する機会や、大会出場の情報や入賞、受賞の際の表彰などをメディアとの協力を得て、校内外に周知する機会を増やす。 ・生徒会総会からの提案などについて協議する機会を増やす。 ・学校の行事予定、行事の報告を1週間1回は最低更新し、更新がわかるようにホームページの先頭ページに更新履歴を書く。	A	・ホームページ、学校新聞、スクールニュース等での各活動の入賞結果報告等については順調に発信できた。と考える。 ・生徒会活動は、各種委員会が主体性を持ち、それぞれの目標を掲げ、おこなわれ実践できた。学校祭運営についても積極性をもち、活動できた。	・各活動の入賞結果報告等の情報発信の仕方は、スクールニュースを利用する方法が最も即効性があるのでこの方法を多く活用する。 ・生徒会活動については、各種委員会が具体的な目標を掲げ、議論を多く重ねたり、各クラスに投げかけたりしていきたい。また、朝の挨拶運動や清掃活動など実践していく事を増やし、活力のある学校生活につなげていきたい。
運営 富校	○安全な学校	交通事故や生活事故件数の減少	・交通事故や生活事故の未然防止のため、講師を招聘した安全教育を実施するとともに、発生時には、迅速かつ丁寧な対応に努める。 ・発生件数を前年度比30%以下にする。	・事故発生的事例を適宜生徒に周知し、交通事故が発生しやすい状況の周知を図り、自ら危険防止のための対策を取るよう粘り強く指導する。 ・学期に1回程度、PTAで交通指導を行う。	B	・年一回交通安全講話を実施しているが、駅前で交通量が多いため事故が数件あった。 ・後援会役員による朝の挨拶運動を学期に1回行うことができた。	・全校集會で事故の発生した場所や状況を話し、交通安全に関する未然防止を中心に取り組みにも努める。
活動 教育	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ・保健室や教育相談および担任との連携	・朝食の摂取や健全な食生活(バランスの良い食事等)の習慣を身につけさせる。 ・「保健便り」やアンケートを通して朝食をとることの意義の理解と啓発を行い、朝食を摂って登校する生徒の割合を95%以上に上にする。 ・養護教諭や教育相談担当及びUSOとの連携によって、心身の健康を図る。	・家庭科や保健体育の授業を通して食育に関する専門知識・技術を高める。 ・定期的「食育だより」などで未だ生徒に必要情報発信していく。 ・外部講師(専門家)による食育講話を実施する。 ・調理実習を通して、栄養バランスの取れた食の在り方を指導する。 ・保健室や教育相談室を訪れる生徒の情報を、必要に応じて担任と共有することによって、生徒の心身の健康を維持する。 ・事故が発生したあとの周回フォローを慎重に行った。自殺予防に関する職員連絡会・職員研修を実施した。SOによる「こころを育む講話」を1、2年に実施し、悩みを相談しやすい環境づくりに努めた。	A	・生徒は家庭科や保健体育の授業を通して、健康な一生を送るために正しく望ましい食生活についての知識を深め実践力を身につけた。また、歯科講話で歯むくことが健康な体づくりにつながることが理解できた。 ・生徒の情報を随時、関係職員と情報交換し、生徒の心身の健康の維持に努めた。 ・事故が発生したあとの周回フォローを慎重に行った。自殺予防に関する職員連絡会・職員研修を実施した。SOによる「こころを育む講話」を1、2年に実施し、悩みを相談しやすい環境づくりに努めた。	・次年度は、外部講師による食育講話を実施し、三食摂取することだけでなく、食生活の内容と健康のつながりに関しては、授業だけでなく専門家の講話を通して理解をより一層深めさせる。 ・保健室と教育相談担当の情報共有と、学年・担任・部活動顧問と連絡を密にすることで、生徒の心身の健康向上にはかかる。

4 本年度のまとめ・次年度の取組 ・新学習指導要領を見据え、学科の特性を生かした授業内容の改善 ・指導力向上のための研究授業や相互授業参観などの推進 ・安全安心な学校として、交通、防犯などを含むモラル意識の向上 ・地域・保護者との連携協働による生徒の育成
--

●は共通評価項目、○は独自評価項目